

[長崎県病院企業団通信]

ふくよか



2016夏号

■長崎県病院企業団本部
■平成28年7月発行



新規採用職員研修 IN 伊王島 !!

目次 CONTENTS

p2.....企業長より

CSRについて

p3.....話題の職員紹介

下五島地域の事務部長・事務長をご紹介します

p4.....特集① 平成27年度決算見込み

速報値をお知らせします

p6.....特集② 熊本地震医療救護支援

各病院から支援活動を報告していただきました

p7.....病院TOPIX

新シリーズ！旬の情報をお届けします

p8.....Break Time

[さかなを食べよう]

vol.
08

CSRについて

企業長 米倉 正大

みなさんはCSR (Corporate Social Responsibility) という言葉を存じでしょうか。初めて耳にする人が大部分だろうと思います。直訳すると『企業の社会的責任』といい、CSR活動は法令遵守、社会的貢献、雇用創出、環境保全など、企業の社会的信用度を高めるために行う活動を指します。

このところ、東芝、旭化成建材、フォルクスワーゲン、つい最近では三菱自動車など大企業の不祥事を報道で耳にします。

また、私の周りでは、電子カルテや高額な医療機械の売り込みに関する大企業の倫理観のなさを痛感するような出来事もありました。

医療機器メーカーが高額な医療機器を売り込もうとするとき、果たしてその機器が地域の住民の健康や病気にどれくらい役に立つのか、ということを考えているのか疑

問に思うことがあります。企業として利潤追求だけに目を向ければ、これは当たり前かもしれません。しかし、利潤追求を先頭に立てながらも、大部分の企業は自ら社会的責任を果たそうと全力を注いでいます。これがまさにCSRであります。

では医療界ではどうか。私は、医療界の倫理観は他の職種と比べ、非常に高いものであると信じています。医療界において、営利を第一にする企業の世界のCSRをそのまま取り入れることはできませんが、我々は安心できる医療自体を提供することが社会的貢献だと認識すべきです。

医療界のCSRは、第一に安心・安全な医療の提供です。これが保障されていないければ、いかなる高度な医療も社会に対し責任を取っているとは言えません。

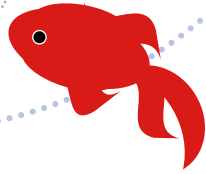
さらに、もっと重要なのが自浄作用能力です。医療は、国民が考えているよりは、

ずっと多くの不確実な要素を含んでおり、多くのリスクを背負っています。そのような中でも、着実に行える医療行為を選ぶ能力であったり、提供した医療が安全でなかったことに気づいたとき、潔くその実態を表に出して修正する能力を身に着けることも、医療人個人の社会的責任といえます。

さて、CSRを達成するためには、一は明るい職場づくり、二は風通しの良い職場でないといけないと言われています。それにはあらゆる職種の人たちがコミュニケーションをとれていることが条件であり、いろいろな問題提起に対し、その解決策を真摯に話し合うことができるような風土が大勢と言われています。さらには、職員の達成感や連帯感が実感できる職場であることが重要です。

これらのことを念頭に置いて、病院企業団は、数年前から一泊二日の新人研修や中堅職員研修などを行い、職員の意識改革を行っています。研修内容はまだ試行錯誤している段階ですが、少しずつ改良を重ね、研修した人が充実感を味わえるような機会になればいいと思っています。

医療人の条件として、その知識やスキルが一定のレベルに達していることが前提ですが、そのうえに、患者さんだけでなく僚にも思いやりのある態度がとれるかどうか、その人の人間力に大きく左右されます。研修会は、まさにCSRを果たす役目も担っています。



Vol.8

話題の職員紹介

第8回目は“あの3人組”です！

さこ としふみ
富江病院 窄 俊文 事務長
(写真左)

富江町までほんのちょっと通勤時間が延び、今までの通勤時にはなかったトンネルがあるため、車のライトの消し忘れが多いのがちょっとした悩みです。

当院は小原院長を中心に職員一丸となって、富江地域の急性期病院として、救急患者への対応や積極的な治療を進める一方で、介護施設への診療応援や在宅診療も実施しております。

また、今年度は電子カルテの導入も予定しており、更なる医療の質とサービスの向上に努めたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします！

なかむら こうじ
五島中央病院 中村 浩二 事務部長
(写真中央)

平成28年3月まで、長崎県の医療政策課というところで病院企業団や医療計画に関する仕事などをしておりました。その前には島原病院（事務長補佐）、さらに以前には県立病院課や島原温泉病院にもおりましたので、病院企業団とは浅からぬご縁を感じております。

当院は、下五島地域の基幹病院として急性期医療を中心に提供してまいりましたが、地域の高齢化の状況等から、回復期機能を強化していく必要性を感じております。

簡単なことではないと思いますが、地域の医療ニーズに合わせて変わっていくお手伝いが少しでもできたらと思っております。

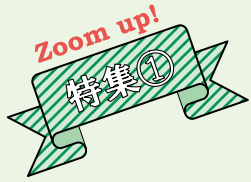
奈留医療センター
しろた よしふみ
城田 好文 事務長 (写真右)

当医療センターも診療所となり2年が経過しました。奈留島は年々人口減少が進み、さらに高齢化率が高まっています。経営的にも厳しい状況ではありますが、地域住民のみなさまに信頼される診療所をめざし、また、安定した医療を提供できるよう、職員一丸となって、精一杯努力していきたいと思っております。

なにぶん不慣れなことばかりで、ご迷惑をお掛けしたり、ご指導いただいたりすると思いますが、どうぞよろしくお願いいたします！

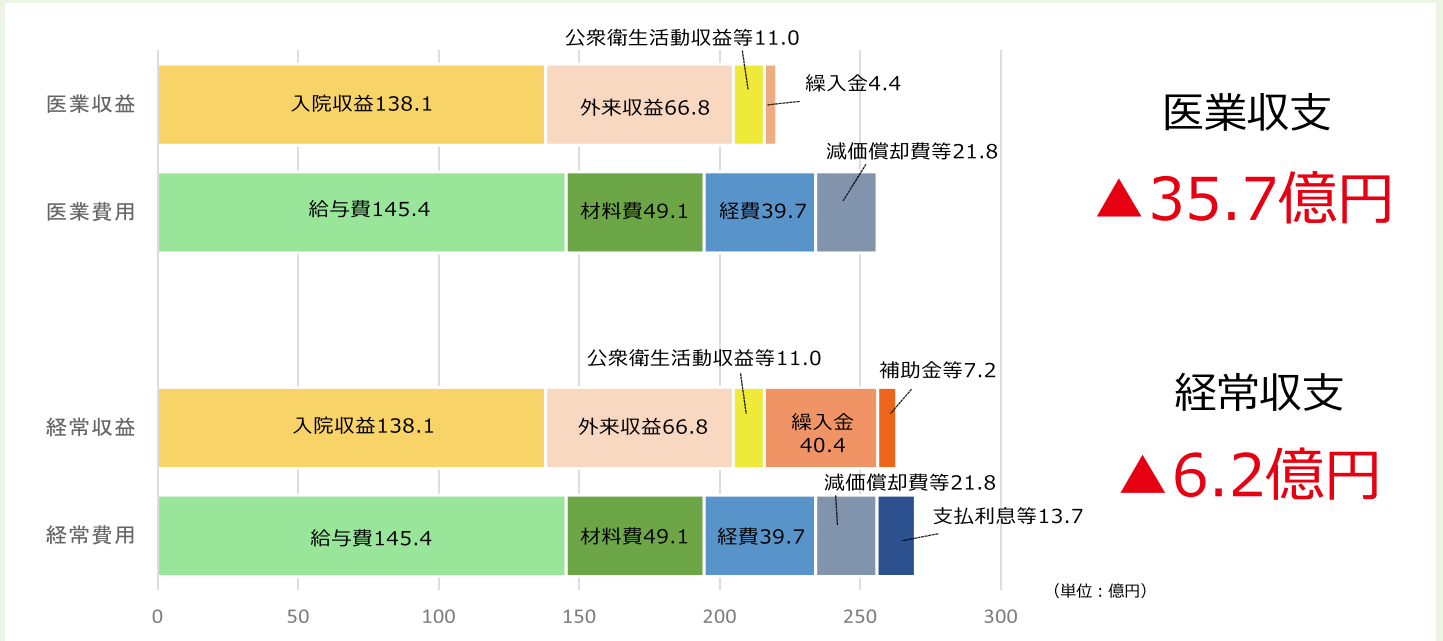
下五島地域では3人揃って新任の事務部長・事務長です。大変な時期ですが、手を取り合って頑張っていきたいと思っております！





{速報} 平成27年度決算見込み

下の棒グラフは、病院企業団の平成27年度の決算速報値を表したものです。



医業収支
▲35.7億円

経常収支
▲6.2億円

入院収益：138.1億円（対前年▲4.7億円）
 外来収益：66.8億円（対前年▲1.7億円）
 繰入金：40.4億円（対前年▲0.5億円）

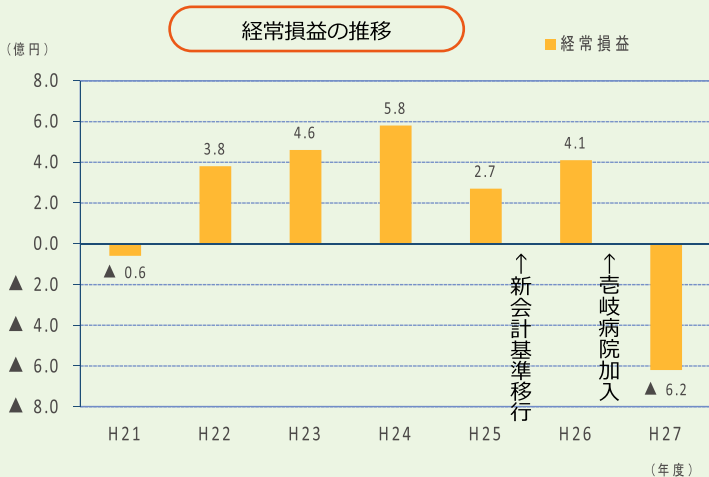
給与費：145.4億円（対前年+0.8億円）
 材料費：49.1億円（対前年▲0.3億円）
 経費：39.7億円（対前年+0.6億円）

※対前年には平成26年度吉岐病院決算値を含む

POINT 1

本業である医業収益のうち入院・外来収益は約205億円で、人口減少に伴う患者数の減等により、前年との比較で約6.4億円減少しています（平成26年度吉岐病院決算値を含む）。収益的収支における構成団体（県・市・町）からの繰入金は約40億円で、総収益の約15%を占めています。

繰入金とは？ 地方公営企業法が定める基準により、政策医療（結核・精神）を提供するために必要な経費などを構成団体が負担するものです。



※吉岐病院は平成27年度から加入

POINT 2

平成27年度の経常損益は、約6.2億円の赤字となりました。吉岐病院の平成26年度経常損益を加味すると、企業団全体では平成26年度より9.4億円悪化しています。

（吉岐病院の平成26年度経常損益は約1億円の赤字）
 本業である医業収益の悪化がそのまま経常損益の悪化につながったと考えられ、医業収益の改善が急務といえます。

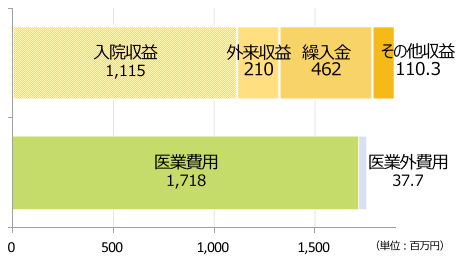
経常損益とは？

医業収益及び医業外収益から、医業費用及び医業外費用を控除したものをいいます。

一会計年度における経営成績を表しています。

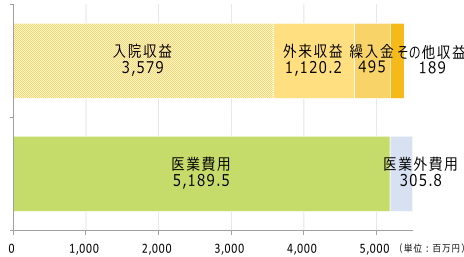
精神医療センター

経常損益
1.4億円



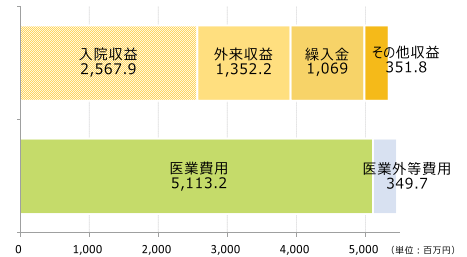
島原病院

経常損益
▲1.1億円



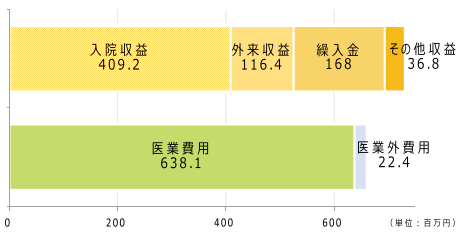
五島中央病院 (附属診療所含)

経常損益
▲1.2億円



富江病院

経常損益
0.7億円

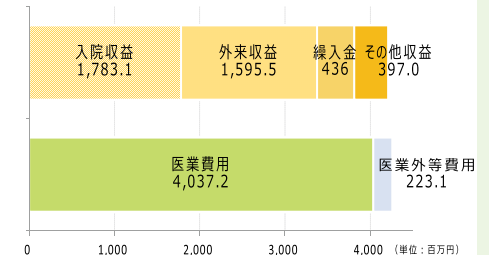


病院ごとの経常損益は
こちらです！



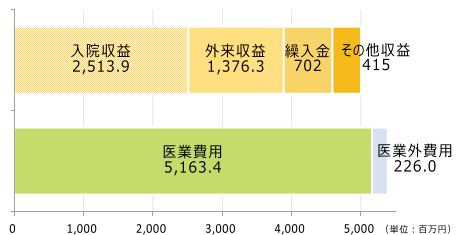
上五島病院 (附属診療所含)

経常損益
▲0.5億円



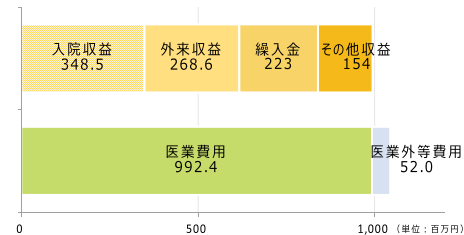
対馬病院

経常損益
▲3.8億円



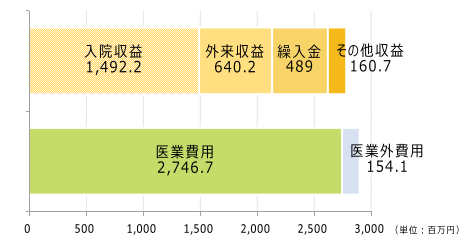
上対馬病院

経常損益
▲0.5億円



杵岐病院

経常損益
▲1.2億円

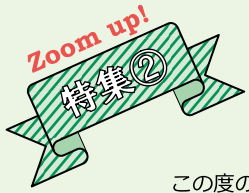


※平成27年度対馬いづはら病院・中対馬病院決算値を含む



POINT 3

企業団が目標とする「地域ごとの経常損益の黒字化」については、精神医療センターを除く各地域で赤字となり、残念ながら達成できませんでした。今後も人口減少や高齢化の進行が予想される中、これまで以上に住民の方々に信頼される病院づくりに取り組む必要があります。また、患者獲得に努めるとともに、常にコスト意識を持って病院運営を行わなければなりません。



平成28年熊本地震医療救護支援活動報告

この度の熊本地方を震源とする非常に強い地震により、熊本県を中心に大きな被害が発生いたしました。被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。また、一刻も早い被災地の復旧をお祈り申し上げます。

企業団病院は地震発生直後より医療救護支援活動を行っています。今回、派遣先での状況など参加病院に報告していただきました。



島原病院



対馬病院



▲島原病院DMAT(災害派遣医療チーム)は、前震後の4/15未明に出動要請を受け熊本赤十字病院へ参集。東熊本病院(益城町)での病院避難活動中にM7.3の本震が発生しました。活動を終え、島原へ無事帰還しましたが、心身の負担は壮絶なものでした。

医療救護班は、避難所の診療活動を行いました。現地での復興に向けて頑張られている姿を目の当たりにして、胸が熱くなり災害医療に尽力していきたいと思いました。

▲DMAT本部補助活動のほか、益城町役場救護所で医療救護班として活動。限られた資源、時間の中で何が被災者のためになるのか考えさせられました。実際に活動にあたったメンバーだけでなく、サポートしてくれた仲間にも感謝!

五島中央病院

▶避難所にいる被災者の問診・診療や合志市の一地区(約60軒)を声掛けしながらの巡回診療活動を行いました。



体調よりも精神的ダメージを受けている方が多く、将来に不安を抱え、生きる気力を失っているように見受けられました。

上五島病院



▲姉妹町村である南阿蘇村が被災し、新上五島町からの要請を受け、医療支援活動を行いました。テント泊・車中泊をされている方も多く、そのような方々の健康管理や医療が必要な方を見つけるべく、避難所や宿泊施設、テント、自宅を巡回しました。時折見せてくれる現地の方の笑顔で逆に励まされたこともありました。

精神医療センター



◀DPAT(災害派遣精神医療チーム)として活動。避難所を回り、対象者と面接。不眠や不安を訴える方も多く、薬物処方や受診勧奨を行いました。また、地元支援者へ介入方法の助言も行いました。

熊本地震に伴う義援金のご報告と御礼



皆様からお預かりした義援金の企業団全体での累計額は、5月31日までに **817,677円** になりました。義援金につきましては、日本赤十字社を通じて被災地へ寄付をさせていただきました。ご協力いただきました皆様方に心より感謝申し上げます。

余震が続く厳しい環境の中での活動は、心身ともに相当なご苦労があったことと思います。大変お疲れ様でした。

今回の地震を受け、病院企業団としても災害医療のあり方や日頃から備えなど、あらためて多くの事を考えさせられました。

長崎県病院企業団の病院の様々な取り組みをご紹介します。
していきます。



平成28年6月より診療案内表示システム
の運用を開始しました。

患者さんのプライバシー保護の観点から同システムの構築が始まりました。システムの稼働により、モニター上に診察の順番が来た患者さんの番号が表示されるようになり、職員が患者さんの名前を呼ばずに番号アナウンス誘導で診察室等へ案内できるようになりました。

また、診察までの待ち時間もおよそ分かるようになりました。今までは診察までの時間が分からず、トイレにも行けなかった患者さんもいましたが、安心して自由に行動できるようになりました。

患者さん・職員共にシステムを使用した呼出にはまだ不慣れな部分もあり、改善していくべき課題もありますが、このシステムを活用してより良い診療体制を整えていきます。

新しい医師センター主幹のご紹介



平成28年4月より長崎県病院企業団医師センター主幹を拝命いたしました

国立病院機構長崎医療センター 救命救急センター長 中道 親昭（なかみち ちかあき）と申します。

長崎市で生まれ育ち、平成6年長崎県医学修学生として宮崎医科大学を卒業、その後は外科医として離島6年（対馬3年、上五島3年）、本土6年（初期臨床研修2年、外科1年、救急3年）の勤務を経て現在の職場に赴任し、4月より現職に至っています。

長崎県民の方々の支援のおかげで医師になれたという初心を忘れず、微力ながら今後もお役に立てるよう精進していく所存です。よろしく申し上げます。

4月から本部勤務となりました。どうぞよろしくお願いいたします。



総務人事班 課長補佐
しゅうさき てつや
庄崎 鉄也

担当業務：
人事、行事調整等に関すること

目 標：
早く仕事に慣れて本部と病院運営の環境づくりに役立つことです。



企画経営班 係長
まつい しんいち
松井 真一

担当業務：
予算、議会に関すること

趣 味：
3年前より麦酒をたらふく飲むように走りはじめ、たまに県内のハーフマラソンの大会に出場しています。



総務人事班 主任主事
どい ゆかり
土井 裕香梨

担当業務：
給与、職員研修に関すること
ふくよかの編集担当となりました。

趣 味：
旅行へ行って、その土地のおいしい食べ物を食べるのが好きです。



企画経営班 主事
おがわ こう
小川 洸

担当業務：
補助金に関すること等

目 標：
昨日より今日、今日より明日という気持ちを胸に頑張っていきます。

Break Time : 「さかなを食べよう」

長崎県は漁獲高が全国第2位、さかなの種類の多さでもトップクラスです。数あるさかなの中で、今回は大衆魚の代表、「アジ」を紹介します（大衆魚といっても最近は値段が高くなっていきますが……）。

アジ料理で思い浮かべるのは、サシミ、タタキ、塩焼き、煮つけ、フライ、酢漬けなどがありますが、おかずに、酒のつまみに、どれも食欲をそそられる一品です。

この魚、春と秋にもっとも多く獲れますが、味がよくなるのは夏です。脂がのって、タタキするのに最適です。秋に入るとさっぱりした風味が味わえ、これも捨てがたいところではありますが……。

アジは集魚灯を用いて魚を呼び寄せる漁法を行うため、満月の頃は月光が明るすぎ、漁獲率が悪くなり、値段も高くなるそうです。ですから、満月前後（それぞれ5日、あわせて10日間程度）を避けた期間が鮮度がよく、値段も安定した「買い得」ということになります。目が黒く澄んでいて、からだピンとしまつて弾力があるもの、銀光しているものが新鮮です。

さかなは魚屋さんで買うのが普通ですが、さらにおいしいのを味わおうと思えば、自分で釣るという手があります。私も以前はよく船釣りに出かけていました。サビキといって、カゴにオキアミを詰めて、その上か下にエビに見せかけた針（4～6本）をつけたもので釣っていました。調子がいい時は、25～30cm級の良型が40～50匹釣れることもありましたが、近ごろはさっぱりです。釣れさえすれば趣味と実益を兼ねた贅沢な遊びなのですがね……。

また、特に青魚は体にもいいそうです。アジのアブラには「DHA」や「EPA」が豊富に含まれ、記憶力の低下を抑えたり、目によいとされています。血液をサラサラにして、血中のコレステロールや中性脂肪を低下させる作用もあるそうです。

ま、栄養のうんちくはともかく、おいしいアジをモリモリ食べ元気を出して、この暑い夏を乗り切りましょう。

（文：副企業長 川良数行）

編集後記

夏本番、暑中お見舞い申し上げます。

まもなく、4年に1度のスポーツの祭典「リオデジャネイロオリンピック・パラリンピック」が始まります。テレビに釘付けになる方も多いかと思いますが、日本とリオの時差は、12時間。決勝種目は、夜中から明け方・早朝に集中しそうで、リアルタイム観戦には覚悟が必要かもしれません。睡眠不足で体調を崩さぬよう気をつけつつ、みんなで日本代表選手団を応援しましょう！



（ふくよか編集担当）

ふくよか

表紙のはなし 新規採用職員研修

6/30～7/1「やすらぎ伊王島」で58名が参加し、平成28年度研修が行われました。グループでのオリエンテーリングなどで他施設職員との交流も図られました。

平成28年7月発行

編集・発行／長崎県病院企業団本部
〒850-0033 長崎市万才町4-12 日本生命ビル旧館6階
TEL.095-825-2255 FAX.095-828-4759
E-mail : honbu@nagasaki-hosp-agency.or.jp
URL : <http://www.nagasaki-hosp-agency.or.jp/>



長崎県病院企業団

検索